

## ■■あえて、並ばないという選択肢■■

現在のところ、天候に恵まれていることもあって、コミケットの一般入場は非常にスムーズに行われており、概ね13：00前後には入退場フリーの状態となっている。

つまるところ、朝04：30の一般入場待機列開始時刻から延々5時間半待って10：00の開場に臨んでも、10：00の開場時刻以降に会場に到着しても、実際に入場できるまでの時間は2時間強しか変わらないのだ。

もちろん、この2時間の差が明暗を分けるケースもままあるだろうから、そこが勝負と考える参加者は04：30からでも並べば良い。しかし、その一番寒い時間帯に長時間の待機をするために必要な装備やコスト、体調を崩すリスクも、よく考えてみてほしい。

これまでに述べてきた通り、長時間待機のための装備のほとんどは会場内に入ってしまうと不要なかさばる荷物となる。大荷物を持っての場内移動は自分自身で疲れるだけではなく、周囲の参加者にもストレスを振りまく要因にもなりかねない。

アナタがピギナーであれ、ベテランであれ、特に明確な目的がなく、単にそれなりに早く入場したいという理由で早朝（6～8時台）から並ぶことを検討しているならば、思い切って10：00以降に会場に到着するプランへの変更をオススメしたい。

開場以降は会場内に入った人数の分待機列は短くなるから、遠くの後尾まで延々移動しなくてすむし、待機関係の装備はほぼ全て不要。気温も未明や早朝に比べればずっと暖くなる。結果的に嘘のように楽に入場できる。また、当日の天候が思わしくない、という場合も、無理に早朝から並ばないことを勧める。雨の中の長時間待機は著しく体力を消耗させるし、雨対策も、慣れないと完全を期することは難しい。とにかく早く、という硬直思考を一旦キャンセルし、当日の状況や自分のコンディションを見極めてより自分に負担のない行動を選択することが、コミケットという少々過酷なお祭りを元気に乗り切る最大のコツなのだ。

そうやって温存できた体力のアドバンテージは大きい（行列に並ぶ代わりにどこかの暖かい飲食店で朝食をしっかり摂ってくればさらにその差は大きくなる）。体力の余裕は気持ちの余裕に繋がるので、もしかしたら新しいナイスな本を見つけられるかもしれないし、困っている他の参加者を助けてあげられるかもしれない。来て、買って、帰るというだけではないコミケットの楽しさを見つけられる可能性が広がる。発見と交流の場としてのコミケットの楽しみこそ、少しでも多くの参加者に味わって欲しいものだ。

能動的に何かしたいなら、冬は西地区ガレリアで行われている献血に参加するという方法もある。

コミケットという行列！と思いついでいる方は多いようだが、寒い冬には無理をしないことで、時間とエネルギーを有効活用する方法もあるのだということ覚えておいてほしい。

### ●スマートホン 電池切れれば ただの版。

既にお使いの向きは重々理解していることだろうが、急速に普及しているスマートホン最大と言ってよい弱点がバッテリーの消耗の早さだ。

一時に比べれば大分通信状態も改善の兆しが見られるが、それでも開場中はキャリアによっては通信不能になることもある。電波を捕まえるためや、twitterなどの使用によって頻りにネットワークにアクセスすれば、バッテリーを激しく消耗していき、普段より遙かに早くバッテリー切れに陥る危険性がある（未明の屋外など、寒い場所で使用するとよりバッテリーのモチは更に悪化する）。

携帯に情報の全てを集約した結果、携帯の電源が落ちると同行者の連絡先さえも分からなくなってしまっただけで合流に支障をきたすといった事態も頻発しているので、端末の予備バッテリーは必携（長時間会場に滞在するならできれば複数）、同行者や最低限の緊急連絡先は万一端末の電源が切れても分からなくならないよう、必ずメモ帳等にも残しておこう。

”お財布ケータイ”や”モバイルSuica”を使用しているなら、携帯の電源が完全に落ちてしまうと、それらの機能も停止してしまう（機種等によって小差があるが）ので、バッテリー管理はよりシビアになる。万一の際に身動きが取れなくならないよう、交通費相当の現金は必ず別に持つておくこと。

また、公衆電話からの連絡も取れるように、テレホンカードも用意しておくことや、携帯が繋がらない、電源が切れたという状況でも落ち合えるように同行者と集合場所や時刻を事前に決めておくこと、家族にも会場では電話が通じにくい可能性を伝え、自分から定期連絡を入れることなど、同行者とのトラブルや家人に心配をかけないように、きちんと対応策を講じておくのを忘れなく。

